



大淀中だより

学校教育目標「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

京都市立大淀中学校

学校だより

令和7年(2025)10月29日

校長 塩見 登

学校教育力向上に向けたアンケート結果(生徒)

前号で掲載いたしました「学校教育力向上に向けたアンケート」の保護者回答に引き続き、生徒回答の集計結果を紹介します。この結果につきましては、学校運営協議会・教職員と共有し、今後の学校改善につなげて参ります。

*数値は「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した人数をあわせた割合になっています。

*令和6年度後期より上がった(↑) *令和6年度後期より下がった(↓)

設 問	R6	R7
①予習復習をきちんとできている	60%	45%↓
②宿題はきちんと忘れず提出できている	80%	74%↓
③グループ学習では仲間と相談しながら、自らの課題を見つけて取り組んでいる	79%	75%↓
④文章の読解力や作文・発表等の表現力が増してきた	63%	62%↓
⑤授業は楽しい	70%	70%
⑥授業はわかりやすい	72%	77%↑
⑦学力を伸ばし、自らの進路実現を達成したい	86%	85%↓
⑧授業を受ける前に教室の美化、机椅子はきちんと整理されている	79%	74%↓
⑨学校生活は全般的に楽しく過ごせている	85%	86%↑
⑩学校行事を前向きに取り組んでいる	86%	85%↓
⑪友達と仲良く過ごせている	92%	89%↓
⑫自分にはいいところがある	65%	68%↑
⑬将来の夢がある	64%	67%↑
⑭困ったときに相談できる友達がいる	83%	83%
⑮自らすすんで挨拶ができている	69%	70%↑
⑯学校のルールは守れている	83%	86%↑
⑰地域の行事には積極的に参加している	37%	30%↓
⑱自分の住んでいる町に愛着を持っている	68%	64%↓
⑲早寝、早起きを心がけている	49%	52%↑
⑳朝ごはんを毎日食べている	82%	81%↓
㉑朝の検温など、健康観察をしっかりと行っている	22%	28%↑
㉒ハンカチを持ってきている	48%	44%↓

□□□■ 学校生活について □□□□

設問⑨「学校生活は全般的に楽しく過ごせている」、設問⑩「学校行事を前向きに取り組んでいる」の項目をみると、数字としては、多くの生徒が学校生活に対して肯定的にとらえており、充実した学校生活を送っていると考えられます。

設問⑫「自分にはいいところがある」、設問⑬「将来の夢がある」は、微増ではありますが、教職員一人一人が生徒理解を深めると共に、生徒自身の自己理解が進んでいることが背景にあると考えています。現在取り組んでいる総合的な学習の時間(探究活動“ドリゼミ”)を通して、自己の可能性を高め、自己理解を深めてくれることを期待しています。

□□□■ 学習面について □□□□

設問⑤「授業は楽しい」、設問⑥「授業はわかりやすい」の項目から、本校が教職員一丸となって協同学習を中心とした授業展開と京都大学の参画のもとパフォーマンス課題という授業改善の取組を継続していることが成果であると考えています。しかし、設問①「予習復習をきちんとできている」、設問②「宿題はきちんと忘れず提出できている」の数値を落としていることは大きな課題としてとらえています。今後も教職員一丸となって研究を進めていきたいと考えています。

～水城祭 閉幕～

9月26日(金)呉竹文化センターにて合唱コンクールが行われました。そして、10月23日(木)体育大会が本校グラウンドにて開催されました。そして、翌日24日(金)水城祭の閉会式を持って水城祭が閉幕しました。合唱コンクールに関しては春休みから会場手配が始まり、夏休み前には本格的に始動しました。そして体育大会は合唱コンクールの取り組みと同時進行で生徒主導の運営が行われました。今年の水城祭に関しては、様々なドラマがありました。最終的に感動的なドラマになったと確信しています。しかし、このドラマには続編があります。その続編を編集していくのも子どもたち自身になります。子どもたちの成長を期待しています。水城祭を通して心が温かくなったメッセージを3点ご紹介します。

“大淀中学校の生徒のパワーを感じます。”(今年度から大淀中学校勤務教員の言葉)

“仕事休んで来て良かった”(合唱コンクール2年生の発表の終了後ロビーにて2年生保護者のお言葉)

“3年間いろいろあったけど、この学校で良かったです”(体育大会終了後、正門で3年生の保護者のお言葉)

(番外編)“Good-bye See you!”(いつも、一言英語で私に語りかけてくださる保護者)



～淀から世界へ(校長の独り言)～

あの衝撃は忘れられない。目に焼き付いたそんな光景や経験は誰しもがあると思います。初めての海外一人旅。タイバンコク国際空港に降り立ったときの衝撃は今でも脳裏に焼き付いています。私は、まるで映画スターのようでした。大きなバックパックを背負い、不安な顔をしている日本人。タイ入国と同時に私の周りには人だかり。白い服に身をまとった男性が私の取り合いです。私からちょっとでも稼ごうとするタクシードライバーたち。緊張感が恐怖感に変わります。その場から早く逃げ去るにも真夜中のタイ。言葉も分からなければ泊まる場所もない。お金も日本円しかない。直感で選んだタクシードライバーに“マネーマネー、チープホテル、チープホテル”を連呼してタイのバーツに換金してその場を立ち去りました。空港からホテルへ。けど、どこのホテル?タクシーの運転手に探してもらうチープホテル。お金を持った日本人を客にしたドライバーは上機嫌、まるでF1レーサーかのように車を飛ばします。生きた心地がしないままチープホテル。そしてお約束のぼったくり。素直にぼったくられ初体験。チープホテルは、1泊100円。けど、電気もなければ水もでない。危険なおいしくない部屋。怖すぎて入り口のドアから侵入者が来ないようにベッドや椅子でドアをロック。ろうそくの火を消して就寝。なんで海外なんかに来たんだろう?マレー半島縦断の旅はこのようにして始まりました。初めての海外は失敗だらけでした。このあと、2週間シンガポールまで失敗は続きます。タイからマレーシアへの国境越えでビザがなく強制送還されかけたときには、現地タイ人が助けてくれました。マレーシアの多民族国家を体感し30年前にしてゴミ一つないシンガポールでの強烈な下痢。そこで助けてくれたのもシンガポールのチープホテルの中華系のオーナー。旅には出会いがいっぱい。これは、もしかしたら一人旅だからかもしれない。そして失敗がいっぱい。けど、失敗から学ぶことが多い。海外でたくさんの人が手をさしのべてくれた。そんな優しさに触れてその国々が好きになったり嫌いになったり。日本にいて出来ることこれからもしっかり考えていきたい。まずは、10年以上受け入れているアメリカの留学生に日本を好きになってもらうことかな。次回は、今井美樹と香取慎吾にあこがれたベトナム縦断の旅の独り言の予定です。

～いつもたわいもない独り言にお付き合いいただき本当にありがとうございます～